

1 鵜沼中学校改築事業に係る基本設計について

鵜沼中学校改築事業は、第3次藤沢市公共施設再整備プラン及び藤沢市立学校施設再整備第2期実施計画に基づき、老朽化の解消、安全性の確保、教育環境の機能向上を図るため、施設全体の再整備を行うものです。

現在、令和4年9月から令和7年9月までの予定で基本・実施設計を進めており、基本設計の概要をまとめました。

2 改築事業の基本方針・コンセプトについて

■基本方針

文部科学省の「中学校施設整備指針」及び「藤沢市立学校施設再整備基本方針」を参考に、学校要望を取り入れる中で、基本方針を次のように定めます。

学びの中心となるメディアセンター・ラーニング commons から、様々なラウンジや教科メディアがつながり、学校全体が学習・交流の場となる学校を目指す

■基本コンセプト

基本方針をもとに次の7つのコンセプトを軸として基本設計を進めています。

メディアセンターを校舎棟の中央に設け、多機能な機器や学習空間・場が得られる学びの場とする

普通教室はICT活用と多様な学習形態に対応する学習環境を創る

学校全体が学習・交流の場となるスクール commons を目指す

多様なコミュニケーションが生まれ、開かれた教職員 commons を設ける

環境との調和・自然エネルギーの積極的活用を図る

地域との交流の拠点として、誰もが使いやすく、防災拠点となる施設とする

安心・安全、将来にわたり維持管理がしやすい施設とする

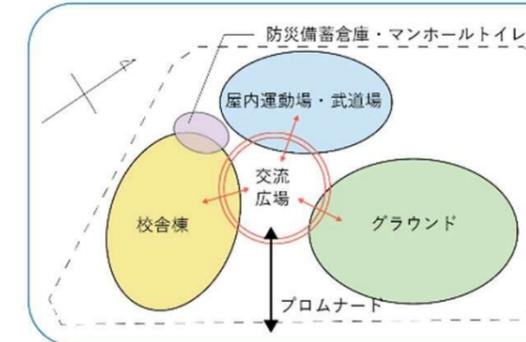


敷地東側からの完成イメージ
(今後、詳細については変更の可能性があります)



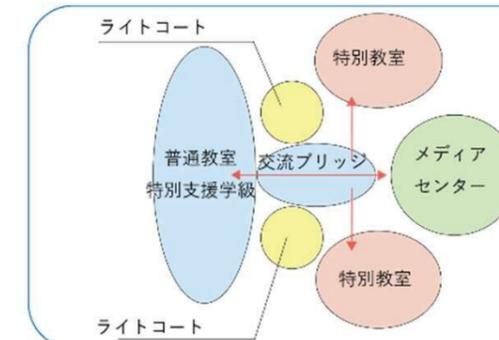
敷地南側からの完成イメージ
(今後、詳細については変更の可能性があります)

■配置ゾーニング



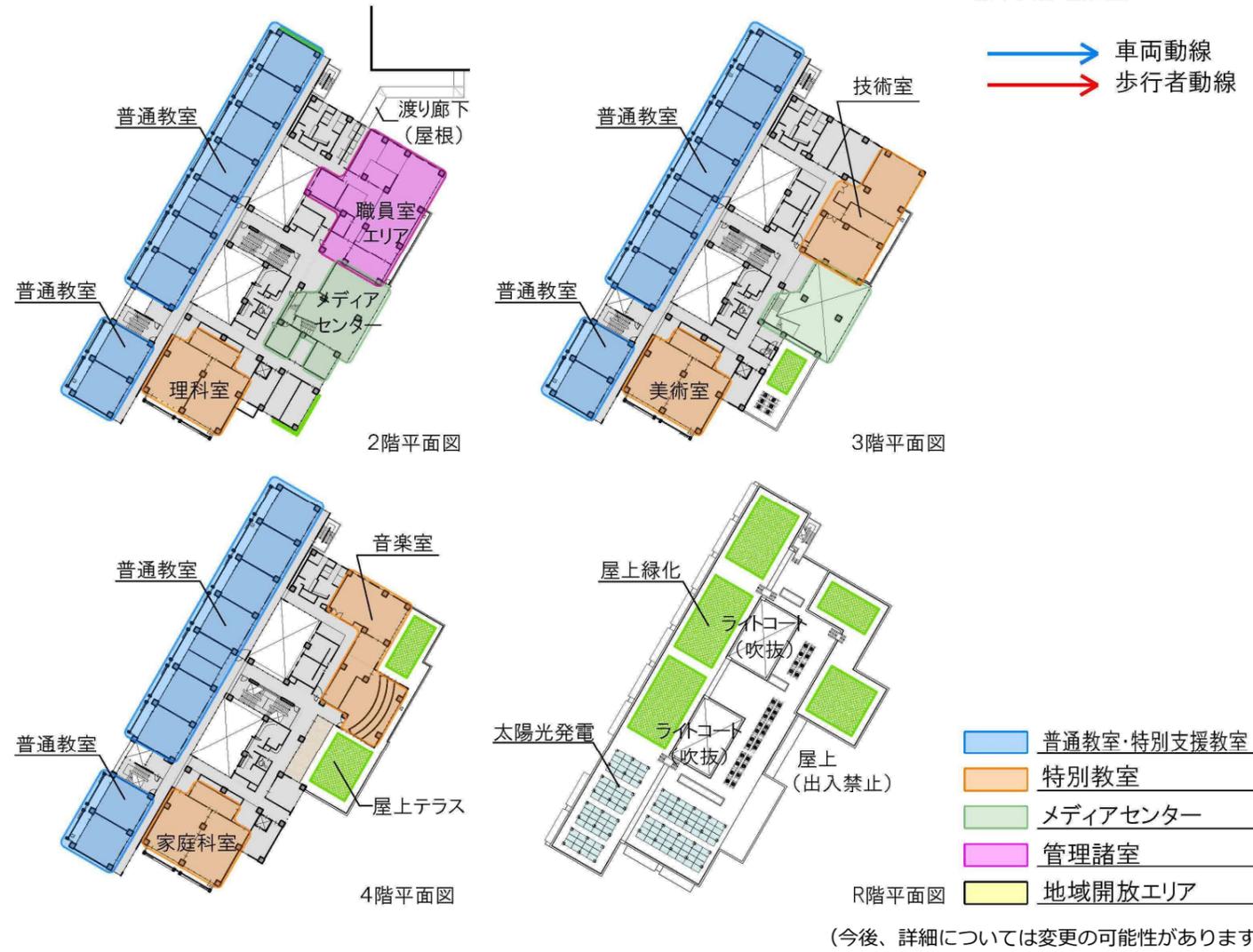
- ・学校の中心に設けた交流広場を中心に、各々のゾーンに活動が繋がる配置計画
- ・校舎棟(アカデミックゾーン)と屋内運動場(スポーツゾーン)を明確化し、地域利用もしやすいゾーニング
- ・災害時の活動・利用動線も明確でわかりやすい施設レイアウト

■平面ゾーニング(校舎棟)



- ・校舎中央のメディアセンターと「交流ブリッジ」により、普通教室ゾーンと特別教室ゾーンの活動が繋がる動線計画
- ・中央のライトコートにより光・風の自然環境を取り込む
- ・特別教室は「本物の活動場」を意識した設えにより学習環境を確保「音楽ホール」「ものづくりラボ」「サイエンスラボ」など

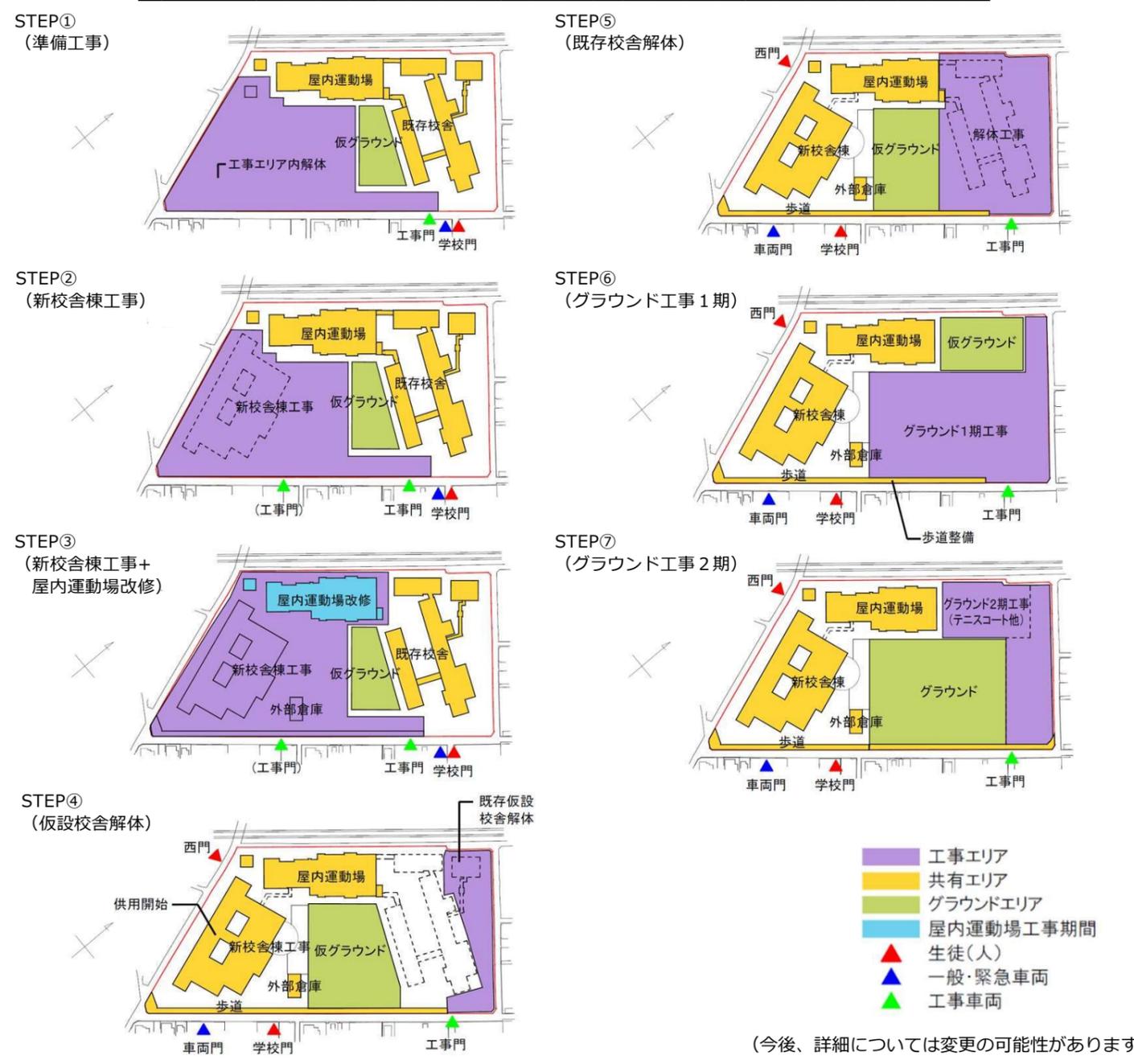
(今後、詳細については変更の可能性があります)



3 工事工程計画と工事エリアについて

事業スケジュールとしては令和8年6月から令和13年3月を予定しています。
 施工順序としては、新校舎棟建設及び屋内運動場・武道場改修を行った後、既存校舎棟を解体し、グラウンド整備を行います。新校舎棟及び屋内運動場・武道場の完成は令和10年5月、事業全体の完成は令和13年3月を予定しています。

事業スケジュール	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
建設工事	実施設計	準備工事	新校舎建設	移転	グラウンド整備1期	グラウンド整備2期
改修工事	実施設計		屋内運動場・武道場改修			
解体工事	実施設計			仮設校舎解体	現校舎解体	仮グラウンド整備
工事STEP		① ②	③	④	⑤	⑥ ⑦



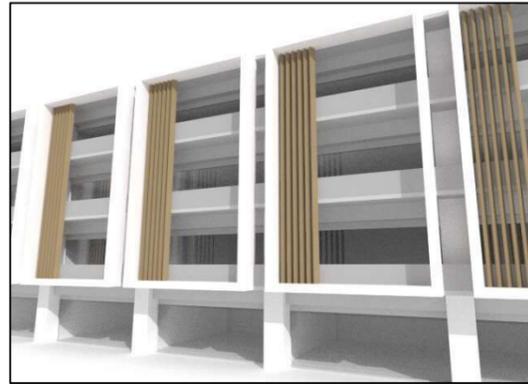
4 計画内容について

◆配置計画について

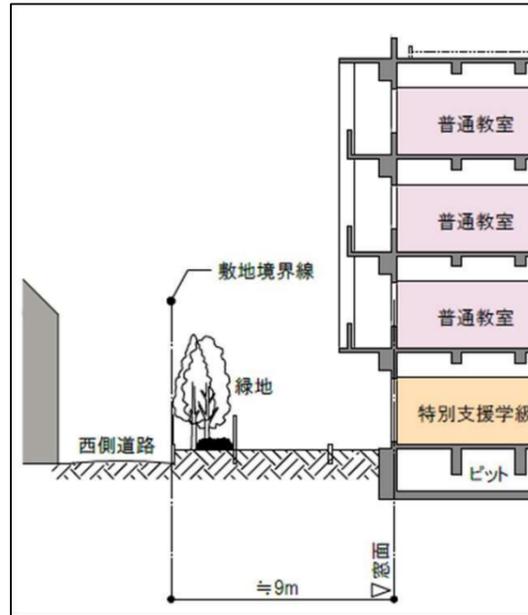
中間報告での比較検討の結果、新校舎棟を敷地南西側、グラウンドを北東側に配置します。

配置計画においては、下記の点について配慮します。

- ・教室のバルコニーに縦型ルーバーを設け、西日対策を講じる他、視線対策にも配慮します。
- ・音楽室や技術室などの音の出る特別教室は、グラウンド側にレイアウトして近隣住宅に配慮するとともに、スピーカーの向きなどにも配慮します。
- ・敷地西側は校舎棟窓面から道路側敷地境界線まで約9m確保します。また、緑地帯には中高木をバランスよく配置し、建物による圧迫感を低減するような植栽の配置を計画します。
- ・敷地内には屋上緑化を含めて、敷地面積の20%以上の緑化面積を確保します。
- ・グラウンドは現状より広いスペースを確保します。
(100m直線コース、200mトラック、サッカー58m×105m)
- ・防球ネット(H=10~15m程度)は、近隣へのボールの飛び込みを防ぐ対策としてグラウンド周りに配置します。
- ・グラウンド周りには防砂ネット(H=5m)設置により防砂対策を講じるとともに、グラウンドの砂は乾燥時にも飛散しにくい砂を選定し、スプリンクラーを設置します。
- ・東側道路沿いには歩道を整備して歩車分離を図り、生徒の登下校時の安全を確保します。



縦型ルーバーイメージ



敷地西側断面イメージ



メディアセンターイメージ

◆施設計画について

7つの基本コンセプトを基に、学校全体が学習・交流の場となる施設計画とします。

- ・メディアセンターを中心に、交流ブリッジにより各階がアクティブにつながる自由な学習空間とします。
- ・教職員の働き方改革を意識したスペースとするとともに、生徒が入りやすく、相談しやすい職員室とします。
- ・交流広場に面したメディアセンターや特別教室により、活動の見える化、賑わいを感じる施設とします。
- ・職員室から登下校の様子やグラウンドが見え、管理しやすい施設とします。
- ・多目的スペースや専用玄関を設け、地域の方々が利用しやすい施設とします。

◆防災計画について

地域の指定避難所としての機能充実を図るため、下記の機能を整備します。

- ・冬季・夏季の災害避難時でも少しでも快適に過ごせるよう、避難所となる屋内運動場に空調設備を整備します。
- ・避難所となる屋内運動場や学校運営上の要所である校長室・職員室の空調及び照明等は、停電時でも使用可能な電源自立型GHPを採用します。
- ・災害時に水洗トイレが使用できなくなった場合を想定し、プール水を活用したマンホールトイレを敷地内に整備します。
- ・屋内運動場に近く、物資の供給がしやすい位置に防災備蓄倉庫を配置します。



屋内運動場空調イメージ

◆環境配慮計画について

自然エネルギーの有効利用などにより、環境負荷の少ない建物を目指します。

- ・太陽光パネル発電システム(50kw程度)の程度採用
- ・雨水(中水)のトイレ洗浄への活用
- ・断熱・日射遮蔽性の高い建具及びガラス、庇などの採用による、開口部を通じた熱負荷の低減
- ・ライトコートによる建物内各所に光と風を取込む計画
- ・ZEB(Net Zero Energy Building)、CASBEE(建築環境総合性能評価システム)の環境評価基準への対応
- ・内装の木質化によって、温かみと潤いのある学習・生活環境を確保します。



太陽光パネルイメージ

◆工事計画について

周囲の道が狭く、住宅が近接している本敷地では、工事計画において、下記の点について 施工業者と調整を図ります。

- ・工事車両ルートは原則として右記のルートとし、現場入口等には交通誘導員を配置して、安全確保を図ります。
- ・杭工事など、施工中の騒音・振動が懸念される工事については、工法を比較検討の上、騒音・振動の少ない工法を選定します。



← 想定工事車両ルート
(今後、詳細については変更の可能性があります)